

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



吹く風も柔らかくなってきましたね。

華やかに咲き誇った桜の季節も足早に過ぎ、今はハナミズキやツツジが、心を和ませてくれます。

ます。

コロナの第3波も落ち着いたかと思えば、感染者数は依然として増え続けています。

ワクチンを接種すれば少しは安心できるのかもしれませんが、全員に行き渡るまでには、まだ少し時間がかかりそうです。



しばらくは気が抜けない日々が続きますが、どうぞお元気で！

家を建てる段取り (8)

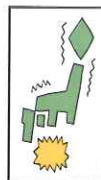
引き続き、家を建てる際に大切な段取りについて書かせていただきます。どんな段階を経て家が完成するのかを楽しみながらご理解いただければ幸いです。

【災害に強い家に住みたい】

家は、生活の基盤であり、生涯の長い時間を過ごすことになる大切な場所です。

そんな場所にもかかわらず、地震などの災害に見舞われる日が来ないとは、残念ながら断言できません。

まして地震国ともいわれる日本では、住宅に求められる耐震性は非常に重要なものです。



既にご存知の通り、あの阪神淡路大震災では多くの建物が倒壊し、その多くが古い木造住宅でした。

しかしそのことにより全国で耐震チェックや、より強い木の家をつくる運動が広がりました。

床・壁・柱・梁などをしっかり強くして、家の倒壊を防ぐ「耐震」の他に、最近では「制震」「免震」についての研究が非常に進んできました。

「制震」は柱と柱の間などに揺れを制御する装置を取り付け、家の揺れをコントロールする技術です。

「免震」はこの揺れを制御する装置が家と基礎部分の間に設置され、揺れが建物に伝わることを抑える技術です。

いずれも日本の住宅には広く普及していますが、地震の被害は家のつくりだけではなく、地盤や地形など立地によっても大きく異なります。

土地選びの際にも、この点を頭に入れておくべきかもしれません。



災害は地震に限らず、火事や水害、台風など人間の力で防ぎきれないことに襲われる場合もあります。

家づくりの際には、これらの対策法についても十分にチェックしましょう。

次回に続く

「清明祭 (シーミー)」

沖縄の三大行事のひとつで、「清明の節」の期間に、先祖のお墓に親族が集まり、お線香やお花、重箱に詰めた料理を供え、供養します。

基本的には、清明の入り (4月5日頃) から15日以内に行うのが基本ですが、現代では休日に行うことが多いようです。

沖縄のお墓の前は「清明祭」をするための広いスペースをちゃんと設けてあります。

ここでお重を囲んで宴が催されるのだそうです。

季節もちょうど良い頃ですし、今ではピクニック感覚で、どのお墓もとても賑やかだとか。

「清明祭 (シーミー)」は、琉球王国の頃に当時の首里府が、現在の那覇市で初めて行われ、これ以降、年間行事として沖縄全土に広まったとされています。



さりげない優しさ



今回は、寒さを一瞬忘れるような、こころ温まるエピソードをお届けします。素敵な女性との出会いから生まれたお話です。

今年の2月のこと。

恥ずかしながら、面倒くさがりやの私は、錆びつきかけていた自転車を、修理に出さないまま使っていました。

案の定、ある日突然、鍵が開かなくなりました。

大学も冬休みだったため、友人に頼るのも気が引けて、仕方なく後輪を持ち上げながら自転車屋へ運ぼうとしました。

が、自転車は予想以上に重く、寒い中を半泣きになりながら休み休み歩きました。



200mほど進んだ時のこと。

「自転車、壊れちゃったんですか？」と、突然後ろから声がしたのです。

驚いて振り返ると、マスクをした30~40歳ぐらいの女性が心配そうに立っていました。

「鍵が開かなくなっちゃって・・・」と言うと、「手伝いますよ」と、にっこり笑ってくれた。寒かったし、重いし、本当はとて有難かったけど「大丈夫です」と断りました。

ところが、その女性は「いいから、いいから」と、なんと重い方の後輪を持ってくれたんです。「私がそっちを持ちます」と言っても、「ここまで運んできて疲れてるでしょ？でも、途中で私が疲れたら代わってね」って。

結局、そこから更に300mほど先の自転車屋まで一緒に運んでくれました。

かなり重かっただろうし、寒かったのに、と思うと申し訳なくて泣きそうになった私に、

「実は私、最近この近くに越してきたばかりなのよ。自転車屋さんはここにあるのね」と、さりげなく気遣ってもらったのです。

お名前や住んでいる所を聞こうと思ったのだけれど、はっきりせずモジモジしている間にその人は、「大したことはしてないから」と、さっさと帰ってしまったのです。

もっとちゃんと聞いておけば、きちんとお礼ができたはず。

マスクをしていたので顔も分からないし・・・

今となってお礼のしようもないけれど、あの人のように、困っている人がいたら、黙って手助けのできる優しい人間になりたい、と思った出来事でした。

その節は、本当に有難うございました。きちんとお礼もできずに申し訳ありませんでした。とっても嬉しかったです！



2月の寒い時期に出会ったやさしい人。
何だか、こころがホッコリと温かくなりますね。

「編集後記」

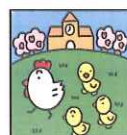
やさしい春風が吹き始め、自然も人も軽やかに動き出す季節・・・ですが、コロナ感染の勢いが未だ衰えず、さまざまな行動にも制限が掛かります。

楽しみにしていたG・Wも、どうやら予定変更を余儀なくされそうですね。

長引くコロナ対策で、お疲れは出ていませんか？良質の睡眠と食事で身体を整え、同時に心のメンテナンスもお忘れなく。

桜は散ってしまったけれど、急に寒さが戻る花冷えの時、体調管理を怠らず、どうぞお元気で過ごしてください！

今月号もお読みいただき有難うございました。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。
ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子